

東山防犯推進委員協議会（京都府）

【まず行動に移そう～前例が無ければ自分たちで作ろう】

活動地域

東山区は南北に細長く高低差があり、世界文化遺産の清水寺を初め、国宝、重要文化財など社寺仏閣が多数あり、京都五花街のうち三花街があり、繁華街の祇園を擁する国内屈指の観光客数のとても賑やかな町ですが、人口はわずか4万人足らず、高齢化率も市内トップです。昼間の人口は観光客で6～8万人、休日には10万人以上が入りする目まぐるしく人口が変化する町です。

活動の経緯

○青パトの運行開始

多くの人が集まるこの町の安心・安全を守るためには、ぜひ青パトが必要だという思いから、平成23年6月、ボランティアの青パト4台で運行を開始しました。しかし東山はイベントが多く、やはり、東山防犯推進委員協議会独自の車を持ちたい、それも広報活動のできる白黒の青パトが必要と思い、管内のJRAから日本中央競馬会に問い合わせさせていただきました。しかし手続に2年はかかるとのことで断念。次に、日本財団に問合せましたが、京都府下では青パト贈呈の実績がないと断られました。しかし、どうしてもあきらめきれず、一度東山の町を見て欲しいとお願いし、私達がいつもパトロールしている高台寺、清水寺、東福寺を細かく案内しました。そうして、ようやく贈呈を前向きに考えるという回答をいただきました。

維持管理については、東山防犯協会にガソリン代、車検代、保険料の負担協力を得ることができました。

車の保管場所については、地区内に閉校になった小学校のグラウンドがあり、教育委員会に駐車場を使用させて欲しいと問合せ、最初は前例がないと断られましたが、何度もお願いし、無償で貸していただけることとなりました。車の税金も、区長にお願いし、無税となる手続をしていただきました。全くパトカーと同じ、パトライトも特注で作ってもらい、マイク、スピーカーも取り付け、ナンバーも110番。これら全ての費用も、東山防犯協会から出していただきました。

平成25年3月22日に出発式を行い、パトロールを開始。効率のいいパトロールをするために、地元の様々な情報を把握している交番を中心に回るようにしました。

○青パト立寄所の誕生

もっとゆっくり情報交換のできる場所が欲しい。そんな時、なでしこ交番が新しく建てられるとの話を聞き、東山署に、交番の赤色門灯の横に防犯活動の青色の門灯をつけて、交番とボランティアが一体となって防犯活動のできる場所として使用させてもらえないか問合せしましたが、全国にそのような事例はない、また、赤色と青色の両方の門灯は見た人が混乱するとの理由で、警察の許可がおりませんでした。

それならば、せめて交番に「青パト立寄所」の看板を掲げて、青パトが立ち寄りやすくして欲しい、コミュニティルームを作って、落ち着いて意見の交換ができる場所が欲しいとお願いし、京都で、いや全国で初めて、「青パト立寄所」を平成27年4月に開設していただきました。

青パト立寄所が開設されれば、パトロールで立ち寄り、コミュニティルームでゆっくり地元の犯罪状況などを聞くことができ、変質者が出たと聞けば、何度も現地をパトロールし、その情報を地元のいろんな会合でいち早く伝えることができますようになります。そうすれば、犯罪がピタッと発生なくなります。また、お巡りさんには、地元しか分からない情報も知ってもらい、お互いが情報交換し防犯に努められます。



いかに回れば、
効率よいパトロールができるか？



活動内容

○パトロール活動

11支部が1支部4日間の当番で、年末・年始の5日間以外は毎日パトロールします。朝、昼、夕方、夜と時間帯を分けて1～1時間半、東山区内全体を回ります。パトロール後は報告書を書き、後の参考にしています。ボランティアの青パトも6台となり、自分の支部と両隣の支部を中心にパトロールしています。

平成28年、三条大橋東交番が2番目の青パト立寄所として、今年4月には、京都女子大学学生寮の1階に交番が入り3番目の青パト立寄所が開設されました。いち早く犯罪の情報を得て、パトロール活動で犯罪を抑止する。全国に立寄所が誕生すれば、犯罪を減らすことができるのではないかと考えています。

また、京都に来られた観光客が安心安全に過ごしていただくのも私達の務めと思い、京都女子大学の学生の協力を得て日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語の防犯広報を録音し、青パトのスピーカーで、安全・安心と同時に、外国人の自転車のマナーなども訴えています。

こうした活動が認められて、東山区内の某企業が白黒の青パトを寄贈くださるとともに、年間20万円の維持費も出してくださることとなりました。「東山が安全安心だから仕事ができる」と言われ、とても嬉しく思いました。まず、行動に移すこと。前例が無ければ、前例を作れば良いのです。

○防犯カメラの設置

京都市は、毎年5台を限度に防犯カメラ設置費用の9割を負担してくれます。この制度の利用により、東山区には現在181台の防犯カメラが設置され、防犯を強化しています。

高齢化により維持できなくなった屋敷が料亭などに変わり、大変にぎやかになった通りでは、近隣3町内と相談して防犯カメラを設置しました。費用は106万円、1割の10万6千円を3町内で分担し、維持費（電気料、SDカード、メンテナンス費用）1台1万5千円かかりますが、1店舗1万円の協力金をお願いして、町内と料亭とで維持しています。

宮川町御茶屋組合とも、6隣組町内とで振興会を作り、2年間で10台のカメラを取り付け、維持費・年会費は1町内1万円、不足分は御茶屋組合が補うことで維持しています。また、観光客が多く訪れる高台寺にも呼びかけ、近隣3町内で防犯カメラ1台を設置し、寺と地元で維持しています。

○イベントでの防犯活動

平成28年に警察署、消防署、市役所、地域ボランティアで、「世界一安心安全のまちネットワーク会議」が結成され、その決起大会を、関係者の理解・協力のもと、世界文化遺産の清水寺で夜のライトアップの中、清水の舞台上で三花街の舞妓に同じ演目で踊ってもらうなど、東山でしかできない大会として開催することができました。平成29年には、知恩院山門前で第2回大会を実施し、安心安全を呼びかけました。

イベントをする時には常にアンテナを張って、必要なら各方面をお願いをしています。南座で公演のある俳優や、吉本花月劇場の座長や若手芸人にキャンペーンのお手伝いをしてもらったり、人力車にはパレードなどで子供110番の車として参加してもらっています。

今までは誰も知らなかった東山の青パトですが、今は、すれ違えばみんなが手を振ってくれるまでに認められています。今後も警察官、ボランティアを中心に、地元企業、学生、住民が一体となり、安心安全なまち東山の治安を守るために、防犯活動を続けていきたいと考えています。

最後に「青パトの歌」、この歌は、東山の青パト活動を進めるために作られた曲です。この歌がきっかけとなり、他府県の団体と交流する機会にも恵まれました。

